

ヘルスケアFM研究部会

医療福祉施設の 持続可能性を考えよう

部会長 **森 佐絵**
 もり さえ

清水建設株式会社
 医療福祉ソリューション部
 認定ファシリティマネジャー



医療施設の SDGs への取り組みの現状

医療・福祉施設でよく聞くのは「新聞などでは見るがまだ切迫感がない」あるいは「取り組まなくてはいけないのはわかるが、たいしたアイデアがない、どう取り組んで良いかわからない」といった、控えめな意見がほとんどである。

昨年刊行された『SDGs で変わるファシリティマネジメント』の中でも「SDGs・ESG に関して具体的に行動していますか?」という問いに対し、最も取り組んでいる業種は農林水産業 50%、次に電気やガスといったエネルギー産業 28%であり、医療福祉関連は 8.6%である。自施設の中で活動している業種の中では最も低い。しかし SDGs の理念を考えた時、医学的、社会的支援を必要としている人々が集まる医療・福祉施設においては、優先して拾い上げる課題がある。医療本来の業務や、持続可能なしくみづくりが大切であり、環境や脱炭素に直結するものだけを取り組みの対象と考えず、もう少し広く捉える必要があるのではないか。

その事例として、ファシリティマネジメントフォーラムでは済生会の取り組みを紹介させていただく。17 の目標に対し、グループとしての指針とそれに対応する活動をできる限り挙げており、たとえば「03. すべての人に健康と福祉を」は、ソーシャルインクルージョンを推進し、訪問ステーションなど地域医療のつながりを構築している。「11. 住み続けられるまちづくりを」については、建設関係者はまちづくりのハード面を想像するが、医療関係の方は、在宅復帰の支援や保健相談などを考えていることがわかる。

国際保健領域の SDGs への取り組みから学ぶこと

2019 年 4 月ヘルスケア FM 研究部会では、国立国際医療研究センターの岡林広哲氏を迎えて意見交換を行った。専門のラオスの医療提供環境の現状と、国際保健領域の SDGs の取り組みについて伺ったものだったが、MDGs (ミレニアム開発目標) で積み残した「子どもを死なせない」という課題を例として、根気強く PDCA をスパイラルアップさせてきた歴史を知ること

なり、私達はおおいに触発された。「誰一人取り残さない」という SDGs の理念が「死なせない」という目標に直結しており、プロセスや方法に広がりや深みがあって PDCA の回し方がわかりやすい。

私達なりに理解したこの歴史を概観してみる。当初、子どもを死なせない目標をたてても死亡率のデータさえなかったため、まず全世界のデータを取ることを目標としてスタートし、19 年かけて達成した。そこでやっと最初の目標である「5 歳未満児死亡率を半分に下げる」が可視化され、アフリカで集中的に対策を行い、2015 年に達成した。次に、対策の遅れていた新生児死亡率に取りかかり目標を達成したのち、10 代の死亡率に移行するが、10 代の死亡率を下げるには「教育」が必要となることは容易に想像できる。そこで「04. すべての人に包括的かつ質の高い教育を」に反映されることとなる。そして死亡率全体を下げるには、貧困、健康、肥満対策に着眼することも必要となり、それぞれの目標が設定された。

以上のように PDCA を何回も回し、「子どもを死なせない」過程をたどっている。この根気強さを知ること、今でも討議する時にはこれになぞらえながら、振り返りながら進めている。

最後に、ポール・ホーケン『ドローダウンー地球温暖化を逆転させる 100 の方法』によると、温室効果ガスの削減に効果がある対策は、高い順に①冷媒の脱フロン、②風力発電、③食料廃棄の削減・・・と述べられていく中で、⑥女兒の教育機会、⑦家族計画という、上述の国際保健のテーマが登場する。これは⑩屋上ソーラー、という自然エネルギーの活用よりも上位に来ている点が注目すべき説である。社会的包括の多彩さ多様さを考えると、対策も多面的であるよう、意識したい。◀

【参考文献・サイト】

- ・ SDGs と済生会 : <https://www.saiseikai.or.jp/about/pdf/SDGs.pdf>
- ・ 『ドローダウンー地球温暖化を逆転させる 100 の方法』 ポール・ホーケン、山と溪谷社 (原題 : Drawdown: The Most Comprehensive Plan Ever Proposed to Reverse Global Warming)

調査研究部会 ●ヘルスケアFM研究部会